



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2023.4.25 号

園主の鳥居徹也です。夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。※配信停止の方はお手数ですがメールまたはお電話でどうぞ(info@treponce.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼稚園
電話:047-429-7231

「好奇心」とは「不安」と「退屈」の間にあるもの

1. 楽しいことは楽(ラク)じゃない！



「楽しいことは楽(ラク)じゃないんだよ。同じ字だけど、よく勘違いしている人があるんだあ」
『藝人春秋』水道

橋博士著、文藝春秋)。

ロック歌手の甲本ヒロトさんのインタビューでの言葉です。甲本さんは、日本のロックシーンに革命を起こしたといわれる元ブルーハーツのボーカリスト。難しいことをサラリと解説しています。

夏見台幼稚園・保育園の教育目標は『楽しい！うれしい！やってみたい！』。「楽しさ」を起点にした意欲を育むこと。内発的動機づけです。私たちは「楽しさ」を大切なものと考えています。

しかしこの「楽しさ」という言葉は安易に濫用されていて突き詰めるとなかなか難しいものです。今日のニュースレターでは「楽しさ」の本質を掘り下げてみます。

楽しい状態とはさまざまなものが想像できます。快楽的な楽しさ、脱力的な楽しさ、平穏な楽しさ…。しかし私が教育目標として考える楽しさとは、**ワクワクするような知的好奇心**です。

ところで児童心理学の本に次のような記述があり、私の記憶に残っています。

好奇心とは「不安」と「退屈」の間にあるもの

好奇心いっぱい探索行動をしている子どもの心理とは次のようなものでしょう。「これちょっとこわいけど、やってみたいなあ」「これつまらない、もっとむずかしいものないかなあ」。

人が最も意欲的になれるのは

確率が50%

のときだという実験があります。

成功率 100% → やがて飽きる

成功率 0% → やる気も起こらない

まさに好奇心とは「不安」と「退屈」の間に起こるものです。

その中間部分を求めて、私たちは子どもたちの遊びの環境を変えていきます。おもちゃの選択を変えていきます。やさしすぎるとつまらない。難しすぎると手が止まる。理想をいえば、子どもの発達のほんの少し先（これを**発達の最近接領域**といいます）に導くこと。これが幼児教育の本質です。

2. フローの条件

同じようなことは働く私たちにもあてはまります。チクセントミハイという心理学者が行った有名な実験を紹介いたします。

今から20年以上前に、世界中から10万人以上のサンプルを集めて行われたものです。の中には京都の暴走族も入っていたというからおもしろいです。

実験はこんな感じです。全員にポケットベルを渡します。1日に8~10回不定期に鳴らします。そのときにやっていること、そのときの気分、誰と一緒にいたかなどを記録用紙に記入。それを1週間集計し続けます。

その結果、充実した人生を送っている人、「時間があっという間に過ぎた」という感覚を持っている人には次のような共通点が認められました。

1. 目の目標が明確だった(小さな目標)

2. 即座のフィードバックを得ていた

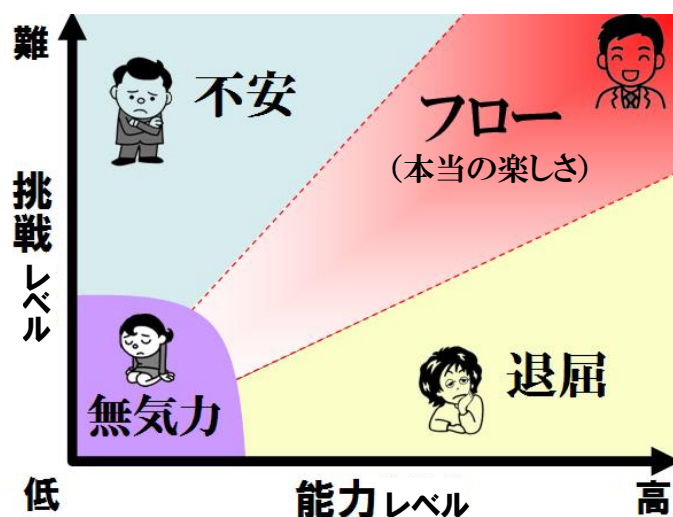
3. 能力と挑戦のバランスがとれていた

まずは1の目の目標がある。充実した時間を送っている時、注意関心はすぐ目の前にあります。何か遠い目標を追いかけているのではなく、小さな目印を確認しています。

その結果の2番目。その反応も早いのです。即時のフィードバックがあります。そこでまた修正して次の行動に移れます。

こうしたとき、私たちは時間の感覚が短くなったりします(あるいは時間が止まった感覚)。物事がコントロールできている気持ちになります。これが「本当の楽しさ」ではないかと思うのです。

さらに私が注目したのが3です。先ほどの好奇心の話ときれいに重なります。



図の「フロー」とは、スポーツの世界でいう「ゾーン」に入った感覚です。時間を忘れ夢中になり充実している状態です。このフローを私は「**本当の楽しさ**」といたいのです。

図をご覧ください。能力の高すぎる人が、挑戦レベルの低いことをしていると**退屈**します。逆に能力の低い人が挑戦レベルを上げすぎると**不安**になります。フローはまさにその間にあり

ます。

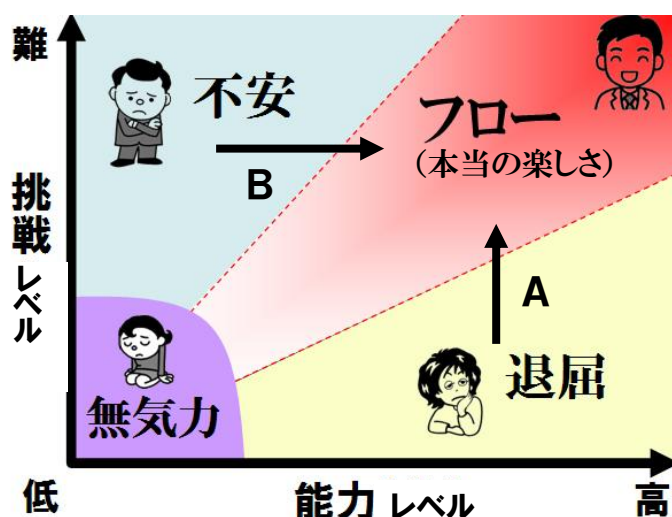
サッカーでも野球でも、能力のある人は海外へ挑戦しますね。フローを求めるのは私たちの本能みたいなものです。子どもも同じです。ワクワクした知的好奇心とは、まさにフローの状態を指しています。

フローの維持には、挑戦や能力アップが求められます。これが冒頭の甲本さんの言葉の真意ではないでしょうか。

私はたまたま、フローの図を思い出しながら自分の今の状態を考えてみます。

A:「最近なんだかちょっと物足りないなあ。挑戦レベルが下がっているのかなあ」

B:「なんだか不安だなあ。もっと準備(努力)すべきことがあるんじゃないだろうか」



このような視点に立つと、遊びの意義が再確認できます。子どもたちに「フローを目指す遊び心」を育みたいと思います。

(終)